

## 「小論文（日本語）」採点基準説明書

### 1. 出題のねらい

課題文では、新生児仮死の後遺症で脳性まひになった「私」が小学生の時に参加したりハビリ・キャンプでの出来事が描かれている。「私」は、昼間は 트레이ナーからの一方的なまなざしの下で「健全な身体」に近づくためのリハビリに苦しみ、夜はリハビリから解放された他の少年が音楽に身をゆだねている姿を見て「快樂」を覚えている。

問いは、「私」とトレーナーや「私」とリハビリを受ける少年との関係を分析して、「私」が感じた苦しさや快樂の理由や背景を考え、それを踏まえて「私」が経験したりハビリの問題点を説明することを求めている。その過程で、他者の身体感覚や自他を取り巻く規範について考えることは、医療現場において患者さんやそのご家族に寄り添う医療者に必要とされる資質である。

### 2. アドミッション・ポリシーとの対応

[対応するアドミッション・ポリシー]

1. 十分な基礎学力を持ち、自ら問題を発見し解決しようとする意欲のある人  
→ 一見望ましく見えるものにどのような問題が潜んでいるのかを指摘できる。
2. 基本的な倫理観と思いやりの心を持ち、利他的に考えることができる人  
→ 著者のリハビリ体験や音楽に身をゆだねる少年へのまなざしを読み解き、その苦しみや快樂がなぜ生まれるのかを分析できる。
3. 礼節を重んじながら自らの考えを他者に伝えるときにも、他者の多様な意見を理解しようとする協調性と柔軟性に富む人  
→ 登場人物の身体感覚や状況を想像して、その体験や感情を説明できる。
4. 多様な文化、変容する社会の中で自らの使命を理解しようとする人  
→ その時代や社会で正しいとされることを具体的な事例から問い直すことができる。